SDGs達成に向けたユース世代としての問題意識

鈴木千花
（次世代のSDGs推進プラットフォーム/JYPS事務局）

問題意識

1. 若者が政策意思決定に参画できる場の不足
2. 子どもと若者を含むマイノリティに関するデータ不足
3. キャンペーン活動におけるSDGsの本質的価値の形骸化

1. 若者が政策意思決定に参画できる場の不足

現状

若者による自主的・組織的ムーブメント

若者の意思決定の場への参画が保障されていない

→ **政策を通して、自身らの声に政治が応答しているのかという不安・不信**

理想

若者による自主的・組織的ムーブメント

✖ **制度上での若者の意思決定の場への参画保障**

→ ・*「声をあげれば社会をよく変えられる」*という意識
・主体者意識の醸成

1. 若者が政策意思決定に参画できる場の不足（提言）

・ユース世代が政策意思決定の場に参画できる機会を増大
・特にマイノリティの若者においては更に参画の機会を増大する必要がある
（障害者、少数民族やLGBT、難病の患者だけでなく、婚外子や一人親家庭、少数派宗教信者）

→政策意思決定者とユース世代が対話できる場の構築

2.子どもと若者を含むマイノリティに関するデータ不足

背景

人種、年齢、性別、階級等、複数のアイデンティティの存在
（多様性）

問題提起

子どもと若者を含むマイノリティに関するデータ不足

原因

マイノリティに属する人々は、世の中の社会的・権力的不平等によって多重の差別(multiple/intersectional forms of discrimination)を受け、周縁化されやすい立場にある

↓

提言

SDGsに関するデータの細分化
→「誰一人取り残さない」社会の実現へ

3.キャンペーン活動におけるSDGsの本質的価値の形骸化

背景

若者世代におけるSDGsの周知の拡大

問題提起

SDGs活動の社会的意義の認知不足による活動自体の目的化

原因

社会における広報と活動の認知に関して焦点がずれている

↓

提言

SDGsの「誰一人取り残さない」など<u>本質の周知</u>